# 無足場工法による外装修繕工事

東京外装メンテナンス協同組合（TEC）
理事　茂木 健一

## vol. 14　外壁補修後の仕上げの進化

前号では塗装工事の第３回として、塗料の飛散についてご紹介しました。塗装工事に付きものの塗料の飛散を防ぐため、簡易足場と養生ネットの設置を考案し、無足場工法で品質アップを図ることができました。

今回は、さらに当組合での施工技術が進化し成長した塗装工事の事例をお伝えしたいと思います。

### 補修後の壁面に、自然な凹凸を施すことが不可欠

連載第７回（2016年11月号）で、外壁のＡＬＣパネルの爆裂補修の事例をご紹介しました。その際、爆裂部分を補修し、モルタル成形して壁面を補修する手順の施工についてお伝えしました。

塗装面外壁は、コンクリートやＡＬＣパネルでも建材自体に凹凸があり、その表面に塗装をしてあります。そのため、壁面を補修するだけでなく、最終的に塗装工事を行い、外壁面を元どおりに仕上げることも必要なのです。

下欄の写真１は、コンクリート下地の爆裂の補修および仕上げの事例です。

このように爆裂やクラックなどで欠損している場合、プライマー塗布やカチオン系モルタル成形などの補修後、塗装して仕上げるわけですが、補修個所に塗装するだけでは、周囲には凹凸があるのに壁面補修した個所だけ平滑になり、継ぎ接ぎのようで見栄えが悪くなります。そのため、壁面補修した個所にも凹凸（同じ模様）を造作しなければなりません。

（写真1）コンクリート下地の爆裂部分の補修と仕上げ

①作業前

②爆裂表面のコンクリートのみ撤去

③サビどめの塗布

④エポキシ系プライマーの塗布

⑤モルタル成形

⑥ペンキ用下地剤の塗布

⑦ペンキ塗装

⑧砂骨ローラー（仕上げ塗装）後

（写真2）塗装用ローラー

《外壁用》中毛ローラー

《内壁用》短毛ローラー

《仕上げ用》砂骨ローラー

## 最適なローラーを発見！お客様の喜ぶ仕上がりに

そこで、私どもではどうすれば見栄えよく仕上げることができるか苦悩していたのですが、とても素晴らしい道具を見つけ、その課題を乗り越えることができました。

写真２の、３つのローラーを比較してみてください。それぞれに特性があり、外壁用は中毛、内壁用は短毛、仕上げ用は凹凸のある砂骨ローラーです。

外壁の塗装には、平滑面が少なく、塗料を多く含んで塗ることでムラを少なくするよう中毛が使用されます。仮に長毛ですと、塗料を多く含んだローラーが塗料の飛散を招き、前号でお伝えしたような問題が生じて作業性が悪くなります。

内壁の場合は平滑面がほとんどであり、繊細さが求められるため、塗料の含む量は少ないほうがムラになりにくく、短毛が適しています。

そして、仕上げに用いる砂骨ローラーは、毛の部分に穴が散りばめられています。塗料に意図的に気泡を発生させ、凹凸を造作するように塗れるため、既存の建材と類似した化粧に仕上げることができます。

この砂骨ローラーを見つけて仕上げに使用したところ、外壁補修した痕跡が全くなくなりました。継ぎ接ぎもなく、美観に優れた仕上がりで引き渡すことができ、お客様にも大変喜ばれ、「どうしてこのようにできるのか？」と聞かれるくらいの品質となりました。

上記の知識を得たことで、外壁からの漏水など、是正を目的に、最低限の補修工事を行っていたのが、既存の建物と類似した仕上げにすることでお客様にもっとも喜ばれる仕事ができるようになりました。

## 清掃から補修まで、外壁改修工事一式を施工

本工事は、ガラス清掃や外壁清掃を無足場工法（ロープブランコ作業）で培った知識・技術を活かし、外壁補修（負の事象の改善）とあわせて塗装工事（美観の回復）まで手がけられるようになりました。施工機会を与えてくださったお客様には大変感謝しています。

これまで１年余りにわたり本連載でご紹介してきた外壁調査・シーリング工事・タイル工事・外壁補修・塗装工事と、さらに私の前任者の本多理事による外壁クリーニングに関する連載「ガラス外装トラブルバスターズ」（2014年７月号～2016年４月号）をあわせて、俗に言う外壁改修工事一式の作業をひととおり網羅し、施工できるようになっています。

次回は、その他の外装工事における無足場工法での施工について、いろいろなお話をお伝えしたいと思っておりますので、引き続きどうぞご期待ください！！



外装メンテはプロにご相談ください！

**東京外装メンテナンス協同組合（TEC）** ●http://garakuri.com/ ●TEL.03-5817-6977